

友の会だより

令和8年
3月
No.57

秋田県立博物館友の会 〒010-0124 秋田市金足鳩崎字後山52 Tel 018-873-4121 Fax 018-873-4123 E-mail: info@akihaku.jp

令和7年度友の会活動報告／友の会からのお知らせ

秋田県立博物館開館50周年記念式典

令和7年9月28日(日)午後1時開式

昭和50年(1975)に開館した秋田県立博物館は、令和7年度で開館から50周年を迎え、1階講堂で記念式典が挙行されました。当日は、鈴木健太秋田県知事をはじめとするご来賓や関係機関等からの招待者、当館の旧職員など約70名の方々が来館・出席しました。

式典では友の会とアイリスの会に対して、これまでの尽力と貢献をたたえるため感謝状の贈呈も行われました。友の会からは、式典に出席していた柿崎仁志会長が感謝状を受け取りました。



阿部館長から感謝状を贈呈される友の会柿崎会長

式典終了後は、日本博物館協会の山梨絵美子会長(千葉市美術館館長・秋田市出身)による記念講演も行われました。「いま、博物館に求められるものー秋田県立博物館50周年を祝してー」というテーマで行われた講演は大変示唆に富む内容であり、秋田県博に対する力強いエールも伝わってきました。(事務局)

令和7年度第2回館内研修

企画展「かく、えがく。ー菅江真澄遺墨資料展ー」解説会

令和7年10月5日(日)午前11時～12時頃

参加者 4名(会員以外の参加者含む)

秋の企画展は、江戸時代の紀行家・菅江真澄が残し

た多様な記録資料について、「かく」(=日記、随筆、地誌など)と「えがく」(=図絵)という観点から分類して紹介したものでした。研修当日の展示解説は、真澄部門の角崎大学芸主事が担当しました。参加者は解説に耳を傾けながら、貴重な真澄自筆資料をじっくりと鑑賞していました。参加者からは後日、「展示担当から直接説明を聞くことができ、参加して良かった」などといった感想が聞かれました。(事務局)



企画展「かく、えがく。」解説会の様子

令和7年度第2回県内研修(施設研修)

「秋田県公文書館と鉱業博物館のバックヤードを巡る」

令和7年10月23日(木)午前10時～午後3時頃

参加者 午前15名、午後12名

(会員以外の参加者含む)

令和7年度の第2回研修会は、秋田市内の2つの施設を見学しました。どちらの施設も、収蔵資料の調査や借用などで当館がたいへんお世話になっており、職員同士の交流も多いことから、普段は公開していないバックヤードの見学など快く受け入れていただきました。

当日は天候に恵まれ、午前10時に秋田県立図書館のエントランスホールに参加者15名が集合し、渡部拓主任(兼)学芸主事に、同じ建物内の公文書館を案内いただきました。最初に閲覧室利用の説明を受け、実際に複製本を閲覧した後、普段は部外者が決して入ることができない貴重文書書庫に入りました。国絵図を収めた大きな木箱や、藩政期の文書の収蔵の様子を見せていただき、参加者からのいろいろな質問にも答えてい

いただきました。続いて公文書第1書庫も見学し、図書館の建物の中にこのような広い収蔵空間があることにびっくりしたとの声も聞かれました。

その後公文書館ボランティアの方々の活動風景を視察し、引き続き畑中康博古文書チームリーダーから連携展「記録資料にみる大地創造—大潟村アーカイブズ・ギャラリー」の展示解説を聴くことができ、大変充実した研修内容でした。



秋田県公文書館貴重文書書庫内の見学

午後は1時30分に鉱業博物館（秋田大学大学院国際資源学研究科附属鉱業博物館）に集合しました。研修会の数日前にすぐ近くでクマの目撃があったため事前予約団体以外は見学不可で、自動ドアも手動にしてクマ対策をしているとのことでしたが、快く受け入れていただきました。前半は千田恵吾技術長（兼）学芸員に、バックヤードの案内をしていただきました。研究室や標本室では、秋田大学鉱山学部以来の歴代の研究者が収集した貴重な標本を見ることができました。また、普段は立ち入ることのできない屋上へ上がり、秋田市内を一望できたことも良い経験になりました。



鉱業博物館屋上から周囲の景色を眺める

後半は、展示室でサイエンスボランティアの方々から、テーマをしぼった詳しい展示解説をしていただき

ました。時間の都合で展示室をじっくりと見学することが叶いませんでしたが、多くの参加者がたいへん興味を持って見学し、是非また訪れたいという感想が聞かれました。

以上のように、充実した研修を実施することができました。ご対応いただいた2つの施設の職員の皆様に厚くお礼申し上げます。（担当役員 渡部 均）

考古ボランティア

令和7年度の考古ボランティアの主な活動は主に次の3つの内容について取り組みました。

①博物館教室「My Jomon Cup」（計6日間）

令和7年度初開催となる上記教室のため、事前の試作と教室当日の指導補助を行いました。この教室は、縄文土器の成形・施文の技術を取り入れながら、実用できるコーヒーカップをつくる大人向けの教室です。実用品とするための施釉と焼成は、「陶 いやしろち」の秋山章子さんにご協力いただきました。考古ボランティアでは、教室の内容を一通り体験した上で、参加者が難しいと感じそうなポイントなどを確認し、教室本番に活かしました。教室最終回、陶芸工房見学の後には完成したオリジナルのカップを使うティータイムも設けられ、教室参加者の満足気な様子に、大きな手ごたえを感じることができました。

②博物館教室「貝輪をつくる」とベンケイガイ漂着状況調査（計8日間）

この教室は「少し難しいが、何度かチャレンジして成功できる」という難易度がちょうど良いためか、3回目となる今回も参加者の反応は上々でした。今後は、完成した貝輪を装着してもらえるよう、大人にはもう少し大きな素材を準備できればと感じています。

また、昨年夏から担当職員を中心にベンケイガイの漂着状況調査を行っています。特定の範囲に漂着するベンケイガイを対象として、貝輪の素材に適した条件の貝殻がいつどの程度漂着しているかをデータ化しています。考古ボランティアでは、拾ってきた貝殻の洗浄と、貝殻の左右の判別、計測作業の補助を中心に活動しました。

③収蔵考古資料の整理ほか（計5日間）

収蔵庫内の考古資料のうち、主に土器破片について整理しました。埃や汚れを軽く払い、土器表面を観察したところ、資料の採取地を示す注記が見つかったり、接合する破片が複数確認されたりと、幾つかの成果もありました。他にも県埋蔵文化財センターが実施中の発掘調査の見学や、館内で使用している火起こし道具のメンテナンスなど、様々な活動を行いました。

（考古部門 加藤朋夏）



収蔵考古資料の整理作業

植物標本整理ボランティア(スマレ会)

牧野富太郎は全国を回って植物採集し多くの標本を作りました。牧野富太郎以外にも植物標本を作った研究者が多数います。秋田県内を中心に標本を作ったアマチュア研究者もいます。こうした人たちの活動によって日本、又は秋田県にどんな植物が自生しているのかわかってきたと言えます。

標本はその地域の植物を考える時の重要な証拠です。県内外の研究者の残した標本が秋田県立博物館にも入ってきています。ただ、個人の収集した標本の多くは新聞紙に挟んだ状態であり、博物館の標本とするには①台紙に貼って(テープで留め)、採集地、採集年月日等を記入したラベルをつける②博物館の登録番号をつける③種ごとにそれぞれのカバーに入れ標本棚に収める、という作業が必要になります。スマレ会の活動は主に上記①～③の内容になります。この活動によって初めて博物館の収蔵標本になり、活用できるようになります。現在、国立科学博物館へ標本デジタルデータ提供も進められているようです。



植物標本の整理作業

今は古い標本の整理が中心ですが、新しい標本も追加したいものです。県内には2千種以上の植物が自生して

いるとされていますが博物館に標本の入っていないものも多数あります。秋田県の植物は秋田県立博物館に標本が全部ある、と言えるようになります。ものです。

(スマレ会 沖田貞敏)

なおスマレ会では、新規ボランティアスタッフを募集しています。見学や参加のお問い合わせは博物館(友の会事務局)までお寄せください。

■活動日時：毎週火曜日 9:30～正午

■参加条件：秋田県立博物館友の会の会員(あるいは入会予定)であること

植物標本の作成、および整理(データ整理)に興味・関心があること

秋田古文書同好会

当会の主たる活動は例会です。毎月、第三金曜日、博物館の学習室で開催しています。博物館所蔵の未読の古文書を資料として、会員(現在17名)が解読したペーパーを持ち寄って発表し、協議をしながら正しい読み方を目指します。指導者は博物館の新堀道生主任学芸専門員で、「くずし字」の成り立ちや読み方、史料の背景、歴史用語の解説など丁寧に解説していただいております。

古文書は難解ですが、くずし字辞典を片手に筆順や前後の脈絡を考えながら読み解いていきます。「わかった、できた」という学びの実感は喜びが大きく、会員は達成感や満足感にあふれ更なる意欲も湧いてきます。また、古文書の解読は何よりも記憶力・思考力・想像力を必要としますので、脳の活性化には最適な活動といつてよいでしょう。



月例会での活動風景

古文書は、その時代の地域と家の履歴であり、生活をしてきた人々の出自や地域の生活の証明になります。それを読むことは、時代を超えて当時の人々と対話しているかのような知的体験になります。「我が家の古文書を解読したい」「博物館や資料館に展示されている史

料を読んでみたい」「くずし字の解読能力を高めたい」という方は、ぜひ当会に入会されたいかがでしょうか。希望の方は、博物館の友の会までお問い合わせください。
(秋田古文書同好会 幡宮明貞)

古文書整理ボランティア

博物館では未整理文書の整理を常時おこなっています。ご協力いただける方がいらっしゃったら、ぜひ力をお貸しください。整理の方法、解読のコツなどは丁寧に指導します。現在はボランティア3名で活動中です。下見・体験参加も可能です。

■作業内容：古文書整理

古文書を読み、タイトル、年代、差出人、受取人などの情報を用紙に記入する

■活動日時：第2・4水曜日

10:00～16:00（参加可能な時間帯で可）

■活動場所：菅江真澄資料センターのスタディールーム

■参加条件：秋田県立博物館友の会の会員（あるいは入会予定）であること

江戸時代のくずし字を解読できるか、習得する意思があること

■申込方法：下記に連絡するか、活動日に活動場所で直接申込

■担当者：秋田県立博物館 新堀道生、黒川陽介

TEL：018-873-4121

e-mail：info@akihaku.jp

(歴史部門 新堀道生)



古文書の解読作業

地質ボランティア

令和元年から引き続き化石標本の整理に取り組んでいます。今年度は主に植物化石本体に標本番号を記入し、化石リストと化石標本の識別を容易にできるよう進めています。但し展示標本が残っていますし、具

化石類には標本番号をどう記入すべきか悩んでいます。

そのような中、亡くなられた先輩の膨大な化石標本の中から寄贈を受ける標本の分別作業を行いました。故人所有の化石は見事にクリーニングされ保存状態も良く、博物館級のものも多くありましたが、残念ながら産地が判らない化石もありました。故人は記憶力が良く化石の産地は化石を一目みると判る方でしたが、未熟な私では一緒に採集した産地以外は判別できません。化石はその生物が活きた時代や棲息環境を知る重要な手がかりとなるものです。同時代とはいえ産地が異なると狭義での棲息年代や環境に違いが生じることが考えられます。考古資料の土器や石器、植物・生物標本と同様に、保存状態は良くとも産地が不明な標本の場合、学術的価値は半減し、博物館での展示は困難となります。そのため、故人所有の化石で産地の判らない標本の引受けは断念せざるを得ませんでした。ご遺族の希望に添えず大変心苦しく思っております。

読者の皆さんも化石を採集した場合には必ず、採集場所と採集年月日を忘れずに記録しておいてください。化石標本は、本体と共に採集場所・採集年月日・採集者などの貴重な情報があるからこそ博物館として標本展示でき、見学者や研究者の期待に応えることができるのではないのでしょうか。
(地質ボランティア 五井昭一)



化石標本の整理作業

【事務局から】 令和8年度役員会・総会のご案内

4月下旬の開催を予定しています。詳細は、同封の案内文書をご覧ください。ぜひ、お気軽にご参加ください。

■日時：令和8年4月下旬（開催日は別紙案内参照）

役員会：午前10時30分から

総会：午後1時00分から

■会場：県立博物館1階 学習室